令和７年度
中心商店街周辺滞在量調査結果

令和８年９月

小樽市産業港湾部

令和７年度中心商店街周辺滞在量調査結果について

１　調査の目的

中心商店街（小樽都通り商店街、小樽サンモール一番街商店街、小樽花園銀座商店街）にどれだけの人が滞在しているかを調査することにより、過去の調査結果との時系列的な比較を行い、商業環境等の変化を把握するための基礎資料とする。

２　調査の方法

LINE ヤフーの行動ビッグデータを分析できるデスクリサーチツール「ヤフー・データソリューション DS.INSIGHT」による統計データを活用した調査。滞在量の単位は「人」

住民の定義：市内に住居があると推定される人のうち、指定した地域内に滞在していた人口

来訪者の定義：市外に住居があると推定される人のうち、指定した地域内に滞在していた人口

３　今回の調査について

昨年度調査では、コロナ禍以降の滞在量の回復状況や、来訪者及び若年層の増加傾向が確認されたことから、本年度は引き続き同様の調査を実施し、その継続性や変化の状況について分析を行った。また、令和元年（2019 年）10 月から令和 8 年（2026 年）3 月までのデータを用いて、住民・来訪者別、年代別及び来訪元別の長期的な推移について分析を行った。さらに、来訪者の中心商店街周辺の利用実態を把握するため、直近年度のデータを用いた時間帯別利用分析を実施した。

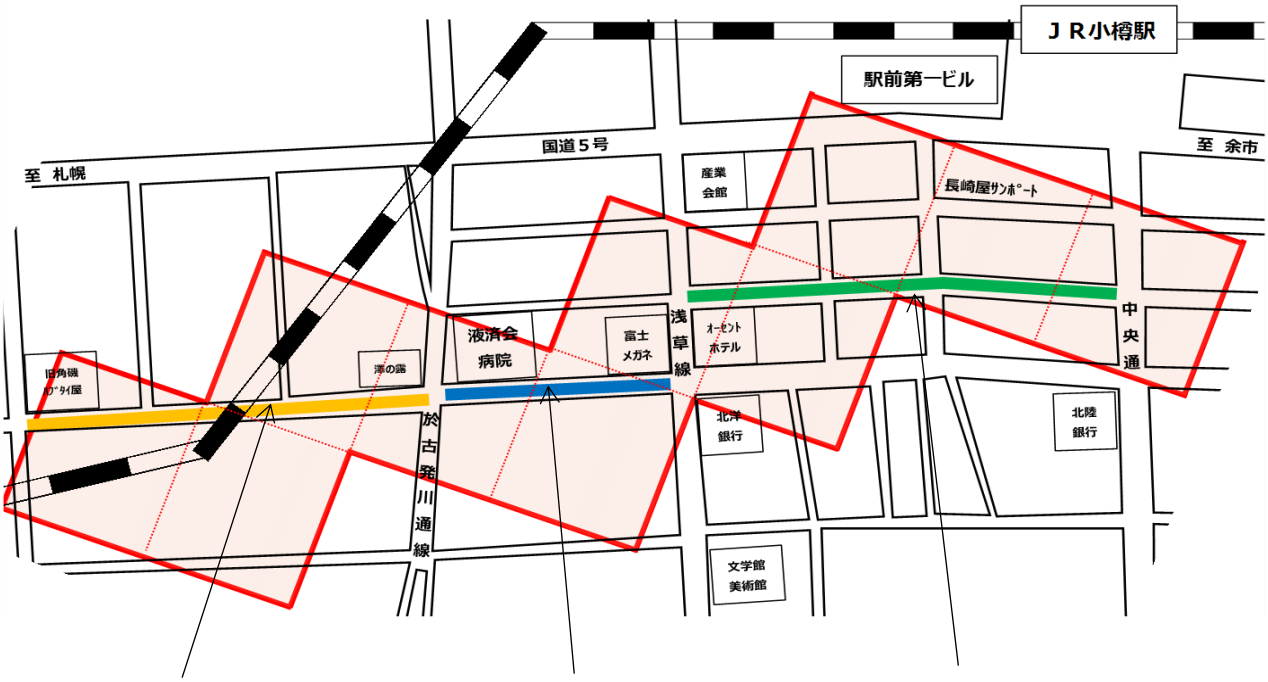
４　データ取得期間

令和元年（2019 年）１０月　～　令和８年（2026 年）３月

５　調査地域

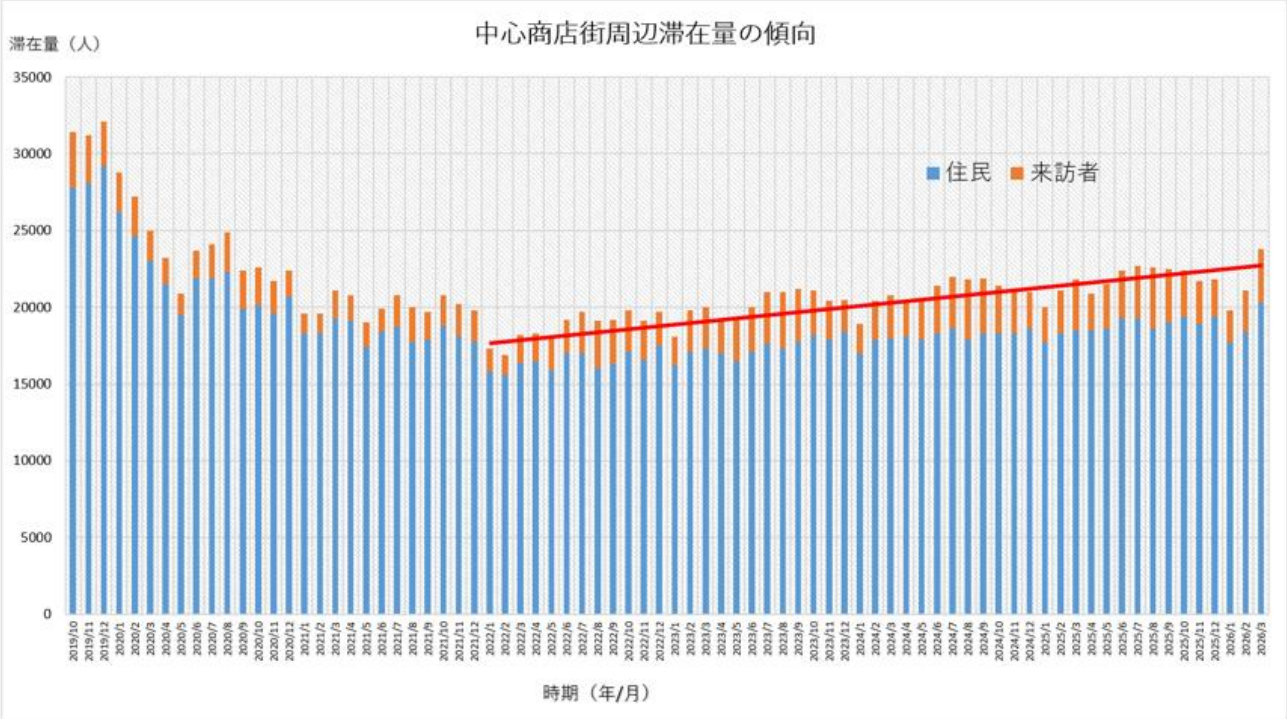
下記赤色の網掛け部分

（小樽都通り商店街周辺、小樽サンモール一番街商店街周辺、小樽花園銀座商店街周辺）



６　調査結果概要

（１）中心商店街周辺滞在量の傾向



出典：ヤフー・データソリューション DS.INSIGHT

・調査地域における 2019 年 10 月以降の月別１日あたり滞在量データを取得・分析
・コロナ禍において減少した滞在量は依然としてコロナ前の水準には達していないものの、近年は来訪者の増加を背景として全体滞在量が緩やかな回復傾向を示しており、その傾向は令和７年度においても継続している。

（中心商店街周辺滞在量データ）

１日あたり滞在量月間平均値（単位：人）

年月	2019/4	2019/5	2019/6	2019/7	2019/8	2019/9	2019/10	2019/11	2019/12	2020/1	2020/2	2020/3
住民							27,800	28,100	29,200	26,200	24,600	23,000
来訪者		データ取得可能期間外					3,600	3,100	2,900	2,600	2,600	2,000
合計							31,400	31,200	32,100	28,800	27,200	25,000

年月	2020/4	2020/5	2020/6	2020/7	2020/8	2020/9	2020/10	2020/11	2020/12	2021/1	2021/2	2021/3
住民	21,500	19,500	21,900	21,900	22,300	19,900	20,100	19,600	20,700	18,300	18,300	19,300
来訪者	1,700	1,400	1,800	2,200	2,600	2,500	2,500	2,100	1,700	1,300	1,300	1,800
合計	23,200	20,900	23,700	24,100	24,900	22,400	22,600	21,700	22,400	19,600	19,600	21,100

年月	2021/4	2021/5	2021/6	2021/7	2021/8	2021/9	2021/10	2021/11	2021/12	2022/1	2022/2	2022/3
住民	19,100	17,400	18,400	18,700	17,700	17,900	18,800	18,100	17,800	15,800	15,600	16,400
来訪者	1,700	1,600	1,500	2,100	2,300	1,800	2,000	2,100	2,000	1,500	1,300	1,800
合計	20,800	19,000	19,900	20,800	20,000	19,700	20,800	20,200	19,800	17,300	16,900	18,200

年月	2022/4	2022/5	2022/6	2022/7	2022/8	2022/9	2022/10	2022/11	2022/12	2023/1	2023/2	2023/3
住民	16,500	15,900	17,000	17,000	16,000	16,300	17,100	16,600	17,500	16,200	17,100	17,300
来訪者	1,800	2,200	2,200	2,700	3,100	2,900	2,700	2,500	2,200	1,900	2,700	2,700
合計	18,300	18,100	19,200	19,700	19,100	19,200	19,800	19,100	19,700	18,100	19,800	20,000

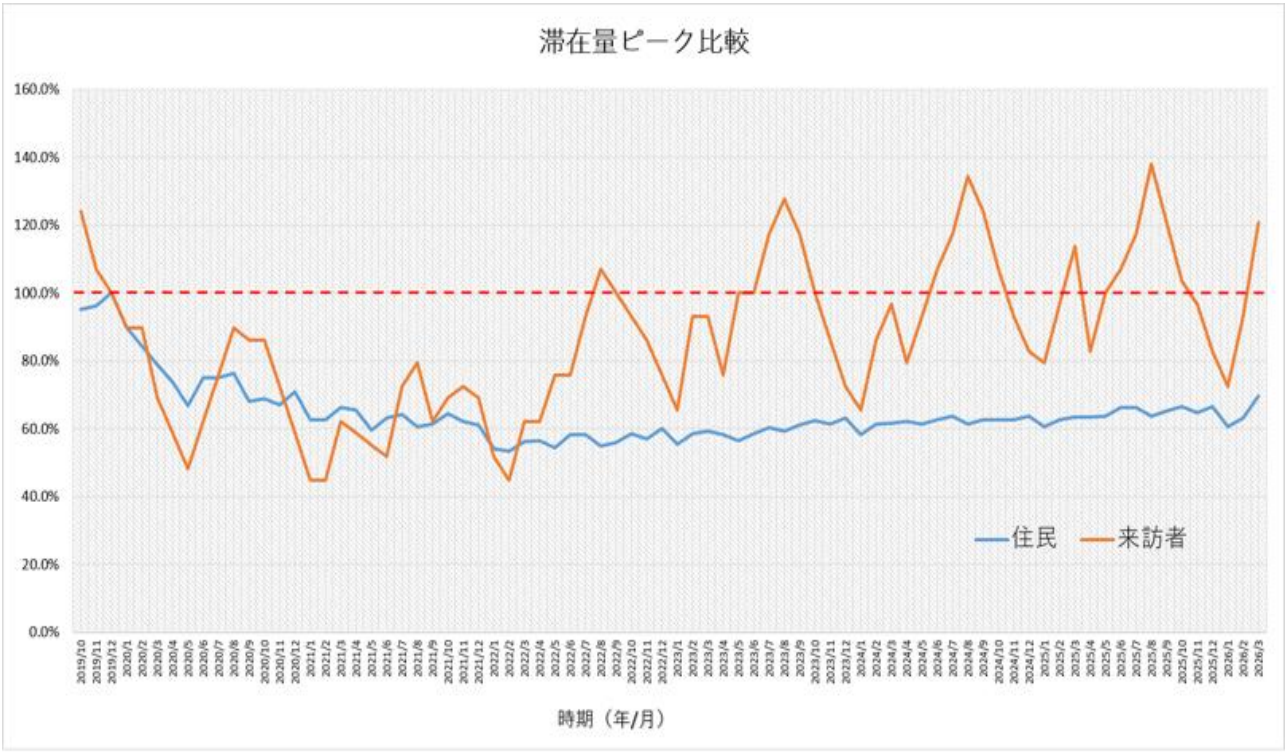
年月	2023/4	2023/5	2023/6	2023/7	2023/8	2023/9	2023/10	2023/11	2023/12	2024/1	2024/2	2024/3
住民	17,000	16,500	17,100	17,600	17,300	17,800	18,200	17,900	18,400	17,000	17,900	18,000
来訪者	2,200	2,900	2,900	3,400	3,700	3,400	2,900	2,500	2,100	1,900	2,500	2,800
合計	19,200	19,400	20,000	21,000	21,000	21,200	21,100	20,400	20,500	18,900	20,400	20,800

年月	2024/4	2024/5	2024/6	2024/7	2024/8	2024/9	2024/10	2024/11	2024/12	2025/1	2025/2	2025/3
住民	18,100	17,900	18,300	18,600	17,900	18,300	18,300	18,300	18,600	17,700	18,300	18,500
来訪者	2,300	2,700	3,100	3,400	3,900	3,600	3,100	2,700	2,400	2,300	2,800	3,300
合計	20,400	20,600	21,400	22,000	21,800	21,900	21,400	21,000	21,000	20,000	21,100	21,800

年月	2025/4	2025/5	2025/6	2025/7	2025/8	2025/9	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1	2026/2	2026/3
住民	18,500	18,600	19,300	19,300	18,600	19,000	19,400	18,900	19,400	17,700	18,400	20,300
来訪者	2,400	2,900	3,100	3,400	4,000	3,500	3,000	2,800	2,400	2,100	2,700	3,500
合計	20,900	21,500	22,400	22,700	22,600	22,500	22,400	21,700	21,800	19,800	21,100	23,800

出典：ヤフー・データソリューション DS.INSIGHT

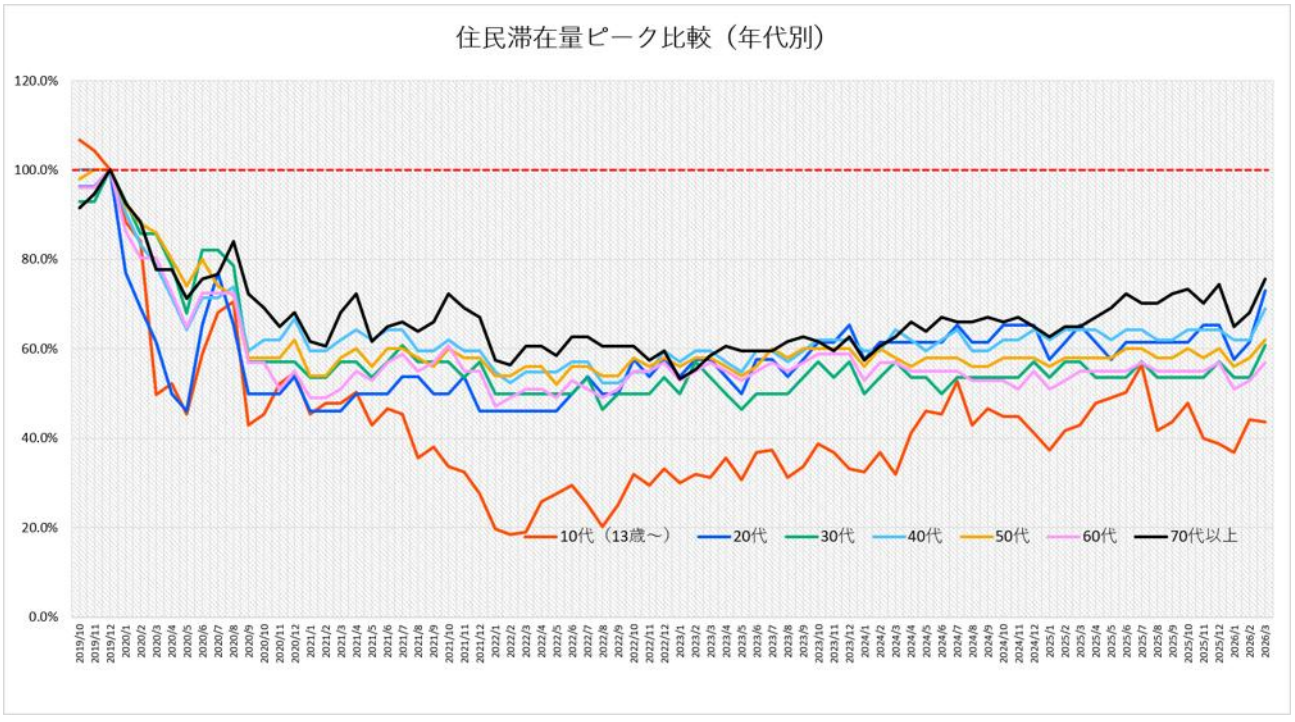
（２）滞在量の傾向分析



出典：ヤフー・データソリューション DS.INSIGHT

・調査期間における住民・来訪者合計滞在量ピーク時（2019 年 12 月、32,100 人）を 100%とした際の、それぞれの滞在量の傾向を可視化
・来訪者については、近年は回復傾向が継続しており、全体滞在量の増加をけん引している。一方、住民については、減少後も大きな回復は見られず、概ね横ばいで推移している。

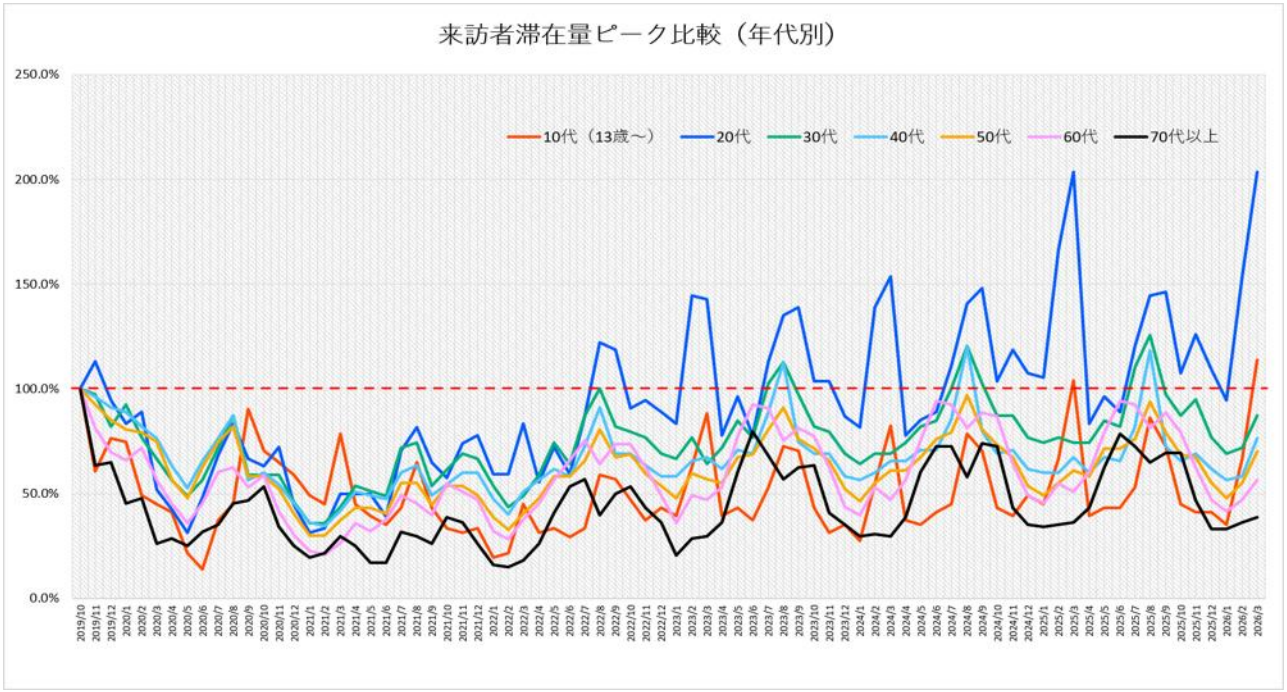
（２）－ａ　住民の年代別滞在量の傾向分析



出典：ヤフー・データソリューション DS.INSIGHT

・滞在量のピーク時比較について、年代別に分析
・住民滞在量ピーク時（2019 年 12 月、29,200 人）を 100%とした際の、滞在量の傾向を可視化
・１０代（１３歳～）については、近年回復傾向が見られるものの、その他年代は、コロナ禍における滞在量減少後も大きな回復は見られず、横ばいで推移している。

（２）－ｂ　来訪者の年代別滞在量の傾向分析



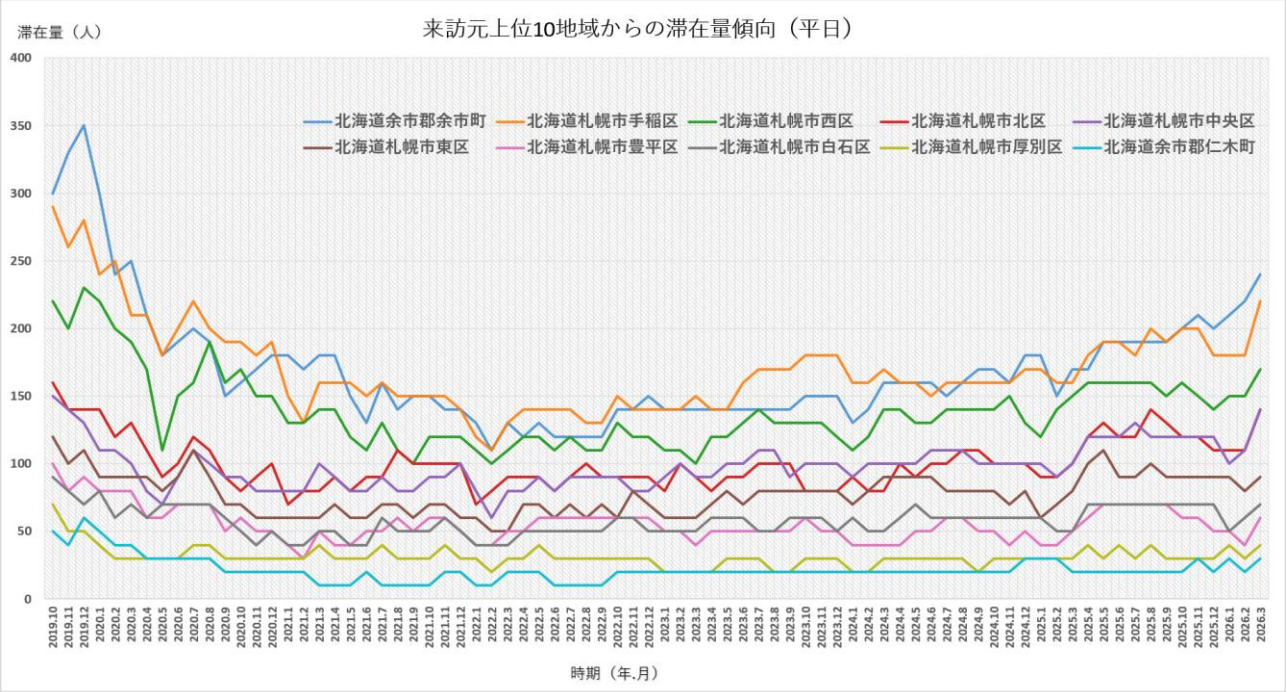
出典：ヤフー・データソリューション DS.INSIGHT

・増加傾向にある来訪者について、同様に分析
・コロナ禍前の来訪者滞在量ピーク時（2019 年 10 月、3,600 人）を 100%とした際の、滞在量の傾向を可視化
・来訪者は全体として回復基調で推移しており、中でも２０代の増加傾向が継続して見られる。

（３）来訪者の来訪元分析

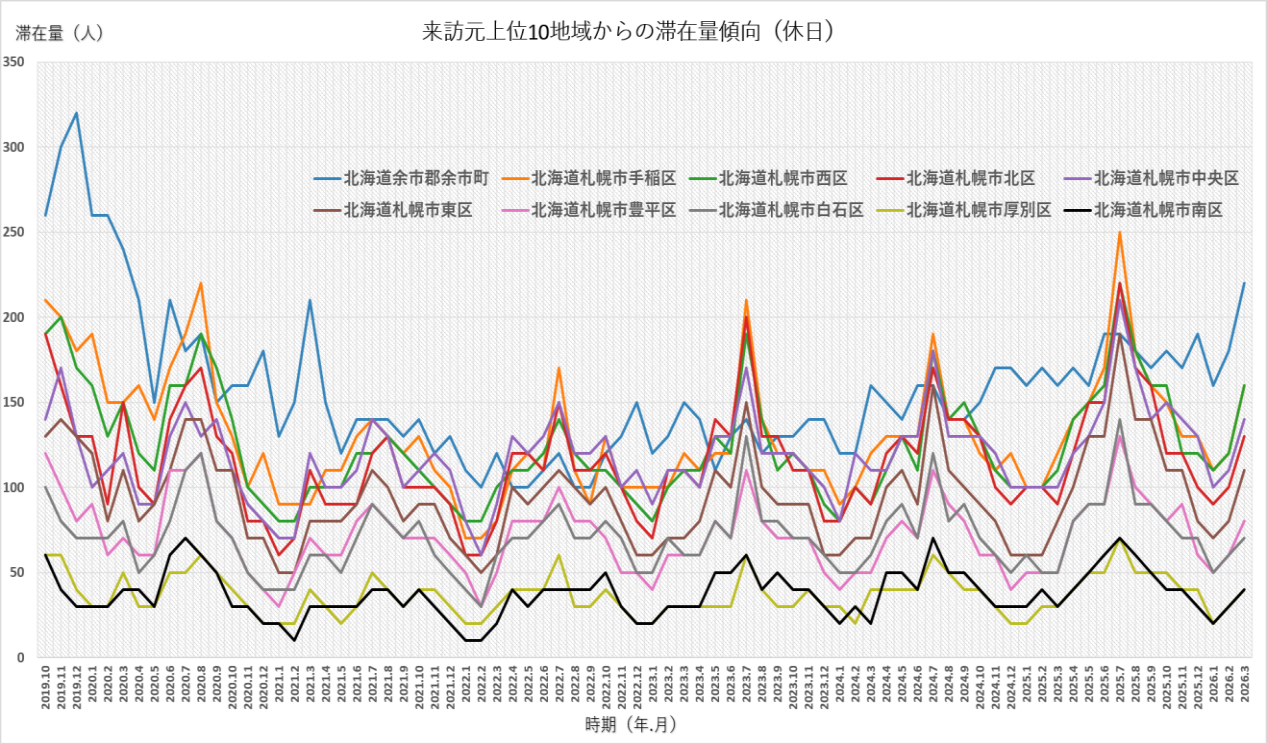
・来訪者の来訪元別滞在量について、上位１０地域からの平日・休日別滞在量データを取得・分析
・札幌市各区からの来訪が中心であり、余市町からの来訪も引き続き多く見られる。
・来訪元上位地域の滞在量構成は概ね継続しており、全体的な来訪者増加の背景には上位地域以外を含む幅広い地域からの来訪があるものと考えられ、観光需要増加による来訪の影響がうかがえる。

（３）－ａ　来訪元上位１０地域からの滞在量の傾向分析（平日）



出典：ヤフー・データソリューション DS.INSIGHT

（３）－ｂ　来訪元上位１０地域からの滞在量の傾向分析（休日）



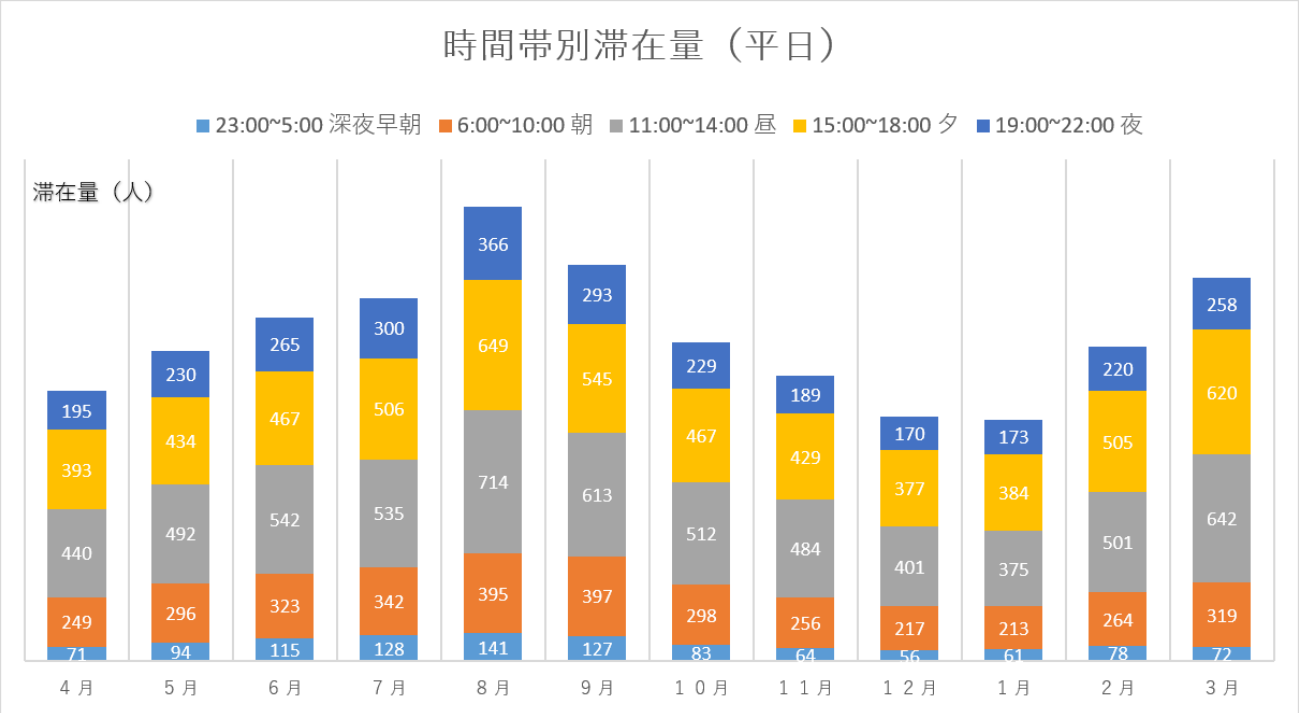
出典：ヤフー・データソリューション DS. INSIGHT

（４）来訪者の時間帯別利用分析

・来訪者の中心商店街周辺における利用実態を把握するため、直近年度の時間帯別滞在量データを取得し、平日・休日別及び時間帯別の利用傾向について分析した。

（４）－ａ　平日の時間帯別利用分析

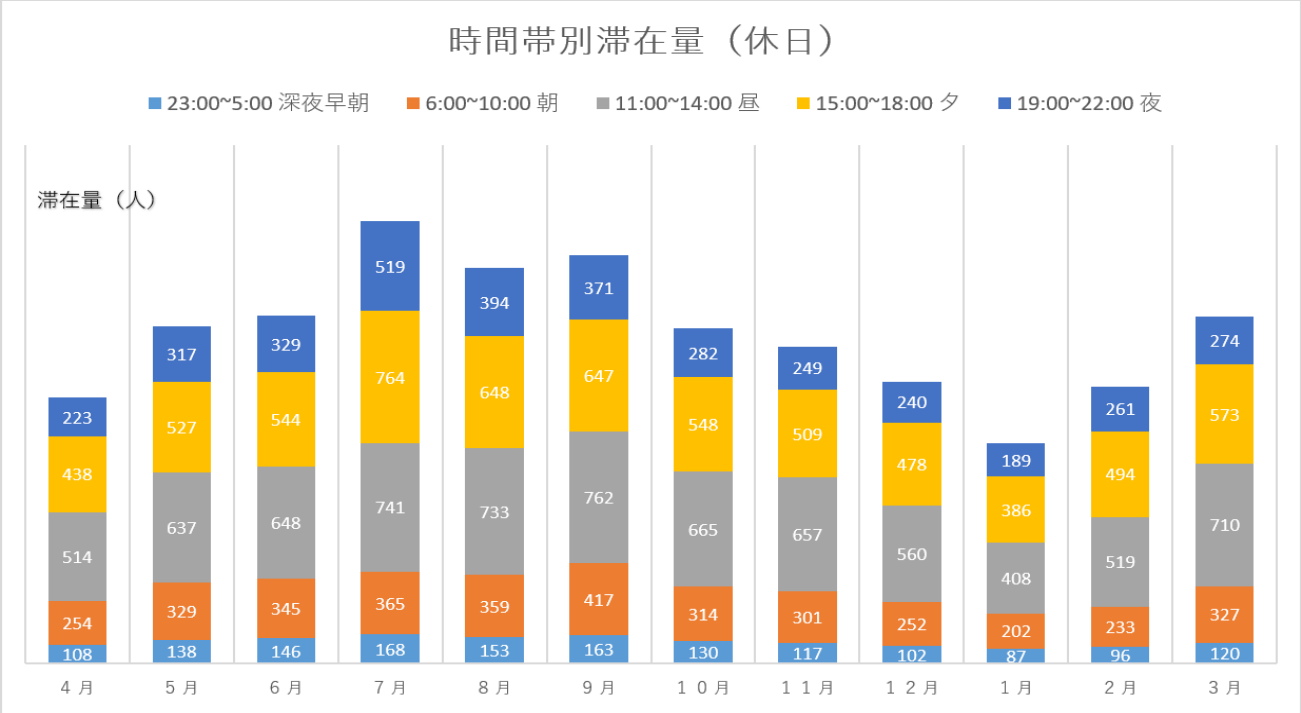
・直近年度における平日の来訪者滞在量について、時間帯別データを取得・分析した。
・来訪者の滞在量は昼から夕方にかけて多く見られ、特に昼間時間帯の利用が中心となっている。
・深夜・早朝時間帯の滞在量は比較的少ないものの、年間を通じて一定数の来訪者が確認されている。



出典：ヤフー・データソリューション DS. INSIGHT

（４）－ｂ　休日の時間帯別利用分析

・直近年度における休日の来訪者滞在量について、時間帯別データを取得・分析した。
・休日についても昼から夕方にかけて滞在量が多く見られるが、平日と比較して昼間から夜間にかけての滞在量が多い傾向が見られる。
・深夜・早朝時間帯においても一定数の来訪者が確認されており、宿泊を伴う観光客や長時間滞在する来訪者の存在が示唆される。



出典：ヤフー・データソリューション DS.INSIGHT

・来訪者の利用は昼から夕方にかけて集中している一方、休日は夜間利用も比較的多く、観光や買い物等を目的とした利用が多いものと考えられる
・従来の歩行者通行量調査では把握できなかった深夜・早朝時間帯にも一定数の来訪者が確認されており、宿泊を伴う観光客や長時間滞在者の存在が示唆されることから、ビッグデータを活用した調査により、来訪者の利用実態をより詳細に把握することができた。

～商店街への聞き取り～

この状況について中心部の商店街に聞き取りを行ったところ、次のような声があった。

・休日や観光シーズンを中心に、夜間に商店街を散策する来訪者が増えているように感じる。
・夜間帯の利用増加を受け、一部曜日について営業時間を延長するなどの対応を行っている。

【まとめ】

・コロナ禍において減少した滞在量は、依然としてコロナ前の水準には達していないものの、近年は緩やかな回復傾向が継続している。
・住民の滞在量は引き続き横ばいで推移している一方、来訪者は回復傾向が継続しており、全体滞在量の増加をけん引している。特に２０代来訪者の増加傾向が見られる。
・来訪元は引き続き札幌市各区及び余市町が中心であるが、来訪者数の増加は上位地域以外を含む幅広い地域からの来訪増加によるものと考えられる。
・来訪者の利用は昼から夕方を中心とする一方、休日は夜間利用も比較的多く、観光や買い物等を目的とした利用が多いものと考えられる。
・深夜・早朝時間帯にも一定数の来訪者が確認されるなど、ビッグデータを活用した分析により、以前の歩行者通行量調査では把握できなかった利用実態を確認することができた。